

滋賀県における野生イワナ個体群の資源量

亀甲 武志

◆背景・目的

遺伝子解析の結果から、琵琶湖水系とその周辺水域に生息するイワナは、河川ごとの個体群がそれぞれ遺伝的な特徴を保持していると示唆されたので、その個体群を単位とした増殖や管理を行う必要があると考えられた。そこで、将来の資源管理に活用することを目指し、各個体群の資源量の推定を試みた。

◆成果の内容・特徴

- 滋賀県の11河川14水域において標準体長100mm以上のイワナ個体数推定をピーターセン法により推定した(図)。
- 10水域では100m²あたり5～10尾と推定され、4水域では5尾以下であり、既往の知見と比較して低い資源水準であることが示唆された。また、ナガレモンイワナは最も生息密度が0.8尾と低かった。

◆成果の活用・留意点

- 野生イワナ個体群の資源を回復させる資源管理方法の開発と併せて、放流による増殖効果も検討する必要がある。

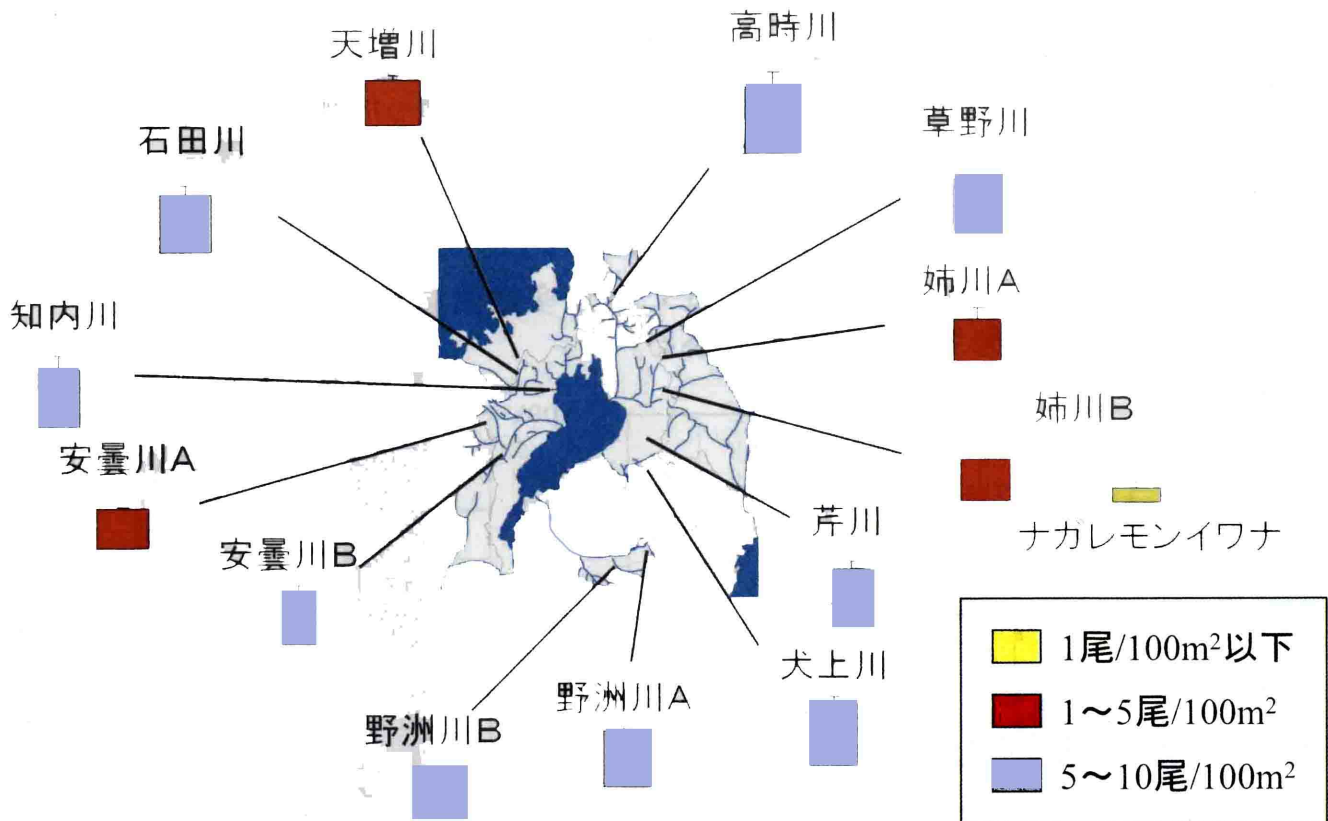


図 滋賀県における野生イワナ個体群の生息密度(体長100mm以上)